

東洋療法いいわて

会報第55号

令和5年5月1日発行

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会

巻 頭 言

一般社団法人 岩手県鍼灸マッサージ師会
会長 佐々木 実

令和4年8月30日京都地裁で、ある犯罪に対しての判決が下された。被告の男、有本省吾（23歳）は、愛知県や京都府など二十数箇所での在日韓国人の家や施設に放火して回ったという。動機はといえば、ネットでの在日韓国人への誤った情報を鵜呑みにし、憎しみを募らせたのだという。被告はその実、直接在日韓国人と会ったこともなければ勿論被害なども受けていない。ただ単にいわゆる「ネトウヨ」と呼ばれる人たちの差別意識を増長させる書き込みに影響を受けてのことだった。

裁判長は「被告は被害も受けていないのに勝手な思い込みで在日韓国人を差別したり敵意を持った。これは初犯を以てしても重罪である」として求刑通り懲役4年の実刑を科した。

どんなことがあったにせよ、人が国籍や人種、出自、障害等々で人を差別することは許されない。これからはあらゆる面において益々グローバル化が進む。自分が相手を差別するという事は、相手にも差別を許すということだ。自分が、あるいは自分の大切な人たちが外国に行って「日本人だから」と差別されたりすることに繋がるのだ。日本に対して国旗を燃やしたり不買運動を起こしたりする人たちもいる。それだからといって自分たちもその真似をしてヘイトスピーチや差別行動をする心の貧しい人間になってはいけない！

取り分け私たちのように医に携わる者は尚更である。医の基本はどんな人であれ等しく施術し苦痛を和らげるといふ差別なき信念である。根本にその精神なくして良い医療人、良いあはき師にはなれないと私は思う。

作品「太陽の子」で有名な童話作家灰谷健次郎は「良い人間というのはどれだけ相手の立場に立って物事を思いやられるかということによって決まってくるのではなかろうか」とその著書の中で語っている。良いあはき師となる一丁目一番地は「差別意識を捨てること」から始まるのだと思っている。

さて、前置きが長くなったが、令和4年度の岩手県師会を振り返ってみたい。コロナ禍3年目ということで相変わらずコロナに左右された1年ではあった。しかしながら、オンラインと現地参加の有効性を上手く組み合わせでのハイブリッド方式での会議や研修会が行われ、これは今後も続くものとなった。言わばコロナがもたらしたプラスの遺産である。

1年遅れの創立80周年記念祝賀会も行われ、それに付随した創立80周年記念誌『道しるべ』も発行することができた。

また、大きな決定としては来年度の全鍼師会の「第22回東洋療法推進大会」を岩手・盛岡の地で行うことを全会一致で決定した。令和5年10月15日、16日には全国の業友が「アートホテル盛岡」に参集し、あはきの学術研鑽や未来を語り合うことになる。岩手県創立以来の全国大会である。

11月には嬉しいニュースも届けられた。長年理事をしている奥州支部の千田節雄氏が岩手県保健功労賞を受賞、元監事の及川清隆氏が厚労大臣表彰を受賞したのだ。来年度の総会後に祝賀会を設けたいと思っている。

年が明け令和5年になってからはコロナの罹患率も下がり、5月8日からは二類の枠からも外れるとの発表があり、人々の動きがコロナ前に戻りつつある。来る令和5年度は明るい年になりそうだ。そして、皆で第22回東洋療法推進大会 IN 岩手を力を合わせ成功させようではないか！皆さんの一層の力添えをお願いし巻頭言といたします。

目次

巻頭言	会長 佐々木 実	…	2
令和4年度活動報告			
総務部報告			
庶務日誌	総務部長 古舘吉弘	…	4
第1回理事会並びに第81回定時総会 及び創立80周年記念式典報告	総務部長 古舘吉弘	…	5
令和4年度第81回定時総会議事録	中渡智彦	…	6
会長会務報告			
全鍼協同組合研修会と全国師会長会議報告	会長 佐々木 実	…	8
東鍼連第1回理事会報告	会長 佐々木 実	…	10
学術部報告	学術部長 佐藤 明	…	11
保険部報告	保険部長 井口 力	…	13
組織強化部報告	組織強化部長 中渡智彦	…	14
健康づくり委員会報告	委員長 古水健吾	…	15
令和4年度各種会議報告			
全鍼師会定時総会報告	代議員 佐藤 明	…	17
全日本鍼灸マッサージ師連盟総会報告	佐藤 明	…	18
日本鍼灸マッサージ協同組合総代会報告	佐藤 明	…	18
国民のための鍼灸マッサージを守る決起集会報告	佐藤 明	…	18
東鍼連秋田大会代議員会報告	代議員 古舘吉弘	…	19
東鍼連学術委員会会議報告	学術部長 佐藤 明	…	20
全鍼師会法制委員会報告	法制担当 佐藤 茂	…	21
全鍼師会視覚障害委員会報告	視覚障害担当 中渡智彦	…	22
東洋療法推進大会 in 埼玉視察報告	副会長 佐藤 茂	…	23
東鍼連秋田学術大会報告	学術部長 佐藤 明	…	24
東鍼連青森交流会参加報告	大船渡支部 田沢博崇	…	25
令和4年度各支部活動報告			
大船渡支部	支部長 古水健吾	…	26
一関支部	支部長 舘下正則	…	27
盛岡支部	支部長 佐藤 明	…	27
二戸支部	支部長 古舘吉弘	…	29
編集後記	広報部長 松下優子	…	29
奥付			

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会 令和4年度活動報告

総務部報告

庶務日誌

総務部長 古舘吉弘

- 4月 8日 法人市民税納入
- 4月17日 岩手県師会第1回執行部会議並びに幹事会 ズーム
- 4月24日 法人県民税納入
- 5月 8日 岩手県師会第1回理事会、第81回定時総会並びに創立80周年記念式典・祝賀会 アイーナ 501a
- 5月17日 理事変更届を法務局に送付
- 5月18日 全鍼師会に地域包括ケア岩手県師会代表者を届ける
- 5月22日、23日 全鍼師会代議員総会、連盟総会、協同組合総代会 東京
佐藤明と佐々木実出席
- 6月 6日 全鍼師会視覚障害委員会（ズーム）に中渡智彦と佐々木実出席
- 6月 8日 東鍼連保険担当者会議（ズーム）に井口力と佐々木実出席
- 6月10日 東鍼連組織強化担当者会議（ズーム）に中渡智彦出席
- 6月11日 全鍼師会地域包括ケア担当者会議（ズーム）に古水健吾出席
- 6月18日 東鍼連学術委員会会議（ズーム）に佐藤明と佐々木実出席
- 6月23日 全鍼師会法制委員会会議（ズーム）に佐藤茂と佐々木実出席
- 7月 3日 東鍼連秋田大会（ズーム）
- 7月 5日 岩手県医療政策室に物価高騰アンケートを送る
- 7月24日 岩手県師会臨時理事会（ズーム）
- 9月 8日 全鍼師会業務執行理事会に次期東洋療法開催権として佐々木実ズーム参加
- 9月24日、25日 東鍼連青森交流会 下北半島 4人参加
- 10月 1日 東鍼連学術委員会会議（ズーム）に佐藤明と佐々木実出席
- 10月 2日 岩手県労災補償課と料金改定を交わす
- 10月 6日 全鍼師会業務執行理事会に次期東洋療法開催権として佐々木実ズーム参加
- 10月 8日 全鍼師会視覚障害委員会会議（ズーム）に中渡智彦と佐々木実出席
- 10月10日 岩手県との間に保険料金改正の協定を交わす
- 10月13日 東鍼連学術委員会会議（ズーム）に佐藤明と佐々木実出席
- 10月16日 岩手県師会ズーム取り扱い説明会 オンライン 10人出席
- 10月20日 盛岡市と保険料金改正協定を交わす
- 10月23日、24日 第21回東洋療法推進大会 in 埼玉（ハイブリッド） 熊谷市
ホテルヘリテイジ 現地4人出席、ズーム5人出席
- 10月30日 岩手県師会第2回理事会（ズーム）
- 11月12日、13日 日本鍼灸マ協同組合研修会並びに全国都道府県師会長会議 東京

佐々木実出席

- 11月14日 全鍼師会視覚障害者担当者会議（ズーム）に中渡智彦と佐々木実出席
11月27日 東鍼連保険担当者会議（ズーム）に井口力と佐々木実出席
12月 2日 東鍼連第1回理事会（ズーム）に佐々木実出席
12月10日 アートホテル盛岡担当者と佐々木会長との打ち合わせ アートホテル盛岡
12月16日 岩手県師会創立80周年記念誌「道しるべ」発行
12月17日 岩手県師会インボイス説明会兼忘年会（ズーム） 13人出席
令和5年1月21日、22日 岩手県師会第3回執行部会議兼新年会（ハイブリッド）
陸前高田市 現地11人、オンライン4人
1月25日 盛岡コンベンション協会フェアに3人参加 盛岡市 ホテルメトロポリタン
盛岡ニューウイング
2月 4日 全鍼師会視覚障害担当者会議（ズーム）に中渡智彦と佐々木実出席
2月 5日 岩手県視覚障害者団体連絡協議会（ズーム）に佐々木実出席
2月 6日 全鍼師会フェムテック委員会県師会代表者名を全鍼師会に送る
3月 2日 全鍼師会法制担当者会議（ズーム）に佐藤茂と佐々木実出席
3月14日 盛岡看護医療大学校鍼灸学科卒業式に佐々木実来賓出席 アートホテル盛岡
3月19日 岩手県師会第3回理事会（ハイブリット） アイーナ
- ・メール版県師会情報配信175回
 - ・会員動向（令和5年3月31日現在）
入会 村田 雅宏（奥州支部）、藤原 真太郎（釜石・宮古支部）
退会 竹井 誠（盛岡支部）、阿部 義博（一関支部）、野月平 優子（二戸支部）
県師会会員91名、全鍼師会会員78名

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会 令和4年度第1回理事会並びに第81回定時総会 及び創立80周年記念式典報告

総務部長 古舘吉弘

風薫る5月8日、約2年半ぶりに岩手県鍼灸マッサージ師会の理事会並びに定時総会が盛岡のアイーナ501aの会場にて開催されることとなりました。この2年半コロナにより様々な会議並びに研修会が集まって開催されることは難しく、今回も現地参加にオンライン参加を加えたハイブリッド方式で行われました。

9時半から第1回理事会が開かれ、令和3年度事業報告並びに財務決算報告と監査報告が承認されました。その後、役員改選があるので選挙管理委員長村上直人氏より説明が行われ理事会は終了しました。

休憩を挟んで10時半より総会が行われました。

（会長挨拶文）

皆さんこんにちは。国内でコロナが発生したのが一昨年の1月下旬でした。それから足掛

け3年目になりますが、なかなか収まる気配はありません。コロナにより当会事業もいろいろと制限されてきました。しかし、その間にも私たちはズームを使って研修会をしたり総会を行ったりと活動の方法を見つけ出してやって参りました。特にズームは移動が苦手な視覚障害者にとって便利な方法として利用されるようになっていきます。

本日は、会場に付き添いを含めて28名が、ズームで9名の方が参加してくれ、例年と変わりのない参加者数となりました。ありがとうございます。

本日は、令和3年度の報告と承認、そして令和4年度の計画等が話し合われますが、その後80周年記念式典が控えていますのでスムーズに進めていただきたいと思ひます。

また、式典では神崎浩之顧問より記念講演をしていただくこととなっております。

本日は、久々に会ったという人が多いと思ひます。コロナ対策を十分に取って旧交を温めていただきたいと思ひます。ありがとうございました。

すべての議題が終了後、昼食をはさみ岩手県師会創立80周年記念式典が行われました。これは、本来なら昨年に開催予定でしたが、コロナのため延期となり今年開催となりました。

初めに、物故者に対し黙禱が行われ佐藤明副会長の開式の辞、佐々木実会長の式辞、各種表彰がおこなわれ、最後に、当会顧問で岩手県議会議員の神崎浩之氏による「岩手県議会の役割と構成」という記念講演がありました。

その後は場所を魚民に移して祝賀会が行われました。大変有意義な1日でありました。

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会 令和4年度第81回定時総会議事録

日 時 令和4年5月8日（日）10時20分～12時

場 所 アイーナ501a、オンライン

記録人 中渡智彦

記

開会に先立ち、古館吉弘総務部長から、会員数92名中25名の出席、委任状47名、欠席20名があり、定款第17条を満たしており定時総会が成立することが告げられた。

出席理事 代表理事佐々木実、以下理事、佐藤明、古館吉弘、山本英典、井口力、中渡智彦
佐藤茂、松下優子、館下正則、古水健吾、千田節雄、高橋則夫、清水寛平、佐々木きみ子

出席監事 朝橋正美、菊地弘

議長と議事録記録人、議事録署名人は執行部一任を受け、出席理事より議長に千田節雄氏、議事録記録人に中渡智彦氏、議事録署名人には佐々木忠久氏、佐藤茂氏が選任された
議事

第1号議案 会務報告（佐々木実会長）

- ・昨年度もコロナ禍で、全鍼師会を初め県師会でも集まったの研修会が出来ず、ZOOMを使って研修会の会場と自宅からの参加者を繋いでハイブリット方式で研修会を行うことが出来た。移動の苦手な視覚障害者にとって、参加しやすい条件が整ったと言われており、全

鍼師会でもコロナが収まってもハイブリット方式を続けていく方針である。

- ・国民の鍼灸マッサージの人気度が低下しており、2年前の調査では鍼灸を受けた人は4.8%、マッサージは15%と横ばいだが、全鍼師会ではこれに危機感を覚え、「あはきの将来ビジョン検討会」を立ち上げ話し合われている。
- ・全鍼師会がこれから活動していくうえで各都道府県師会と関係を密接にしたいということから、法制委員担当者を出して欲しいと言われ、佐藤茂氏を推薦（昨年12月に1回目の会議を行った）。保険委員会からは国保の審査委員会に入っている人を教えて欲しいと言われ、井口力氏が担当して報告（何かあった場合オンラインで会議の予定）。視覚障害者委員会からも担当者を出して欲しいと言われ、中渡智彦氏を推薦（3月22日オンラインで第1回目の会議を行った）。
- ・7月には3年に1回の参議院選挙が行われることから、全鍼では自民党の自見はなこ氏を応援しており、県師会でも役員を中心に名簿を作成し、選挙事務所に送ることにした。全鍼では5月23日に議員や秘書に集ってもらい、私たちの要望や訴えを聞いてもらうために、集会を開きたいと考えている。
- ・質問（及川清隆） 集会の時に議員の人たちに要望書を渡す予定はあるのか？
回答（会長） 全鍼では保険の鍼灸の併用、無免許の取り締まり、視覚障害者に関する支援を要望書に入れて出す予定。
（及川清隆） この機会を逃すと私たちの思いが届かないので、是非要望書を出して欲しい。

第2号議案 令和3年度各部事業報告と承認

総務部、庶務部、学術部、事業部、保険部、組織強化部、広報部、健康づくり委員会、無免許対策委員会より順次報告があり、全会一致で承認された。

第3号議案 令和3年度財務部決算報告並びに監査報告と承認

財務部長より令和3年4月1日から令和4年3月31日までの報告があり、続いて監事から帳簿や領収書綴り等にも誤りがないことを認めるとの報告があった。

第3号議案は全会一致で承認された。

第4号議案 令和4年度各部事業計画について

総務部、庶務部、学術部、事業部、保険部、組織強化部、広報部、健康づくり委員会、無免許対策委員会より順次報告があった。

（コロナ感染拡大により、計画された行事が中止になる可能性あり）。

第5号議案 令和4年度財務部予算について

財務部長より令和4年度の予算書（収入、支出）の説明と昨年度はコロナ禍で事業があまり出来なかったため、今年度の会費の減額（3,000円）の説明があった。

第6号議案 役員改選について

- ・村上直人選挙管理委員長より、理事は定款に定めのある定足数以内であるため、信任投票を行う。当選は過半数以上との説明があり、投票に入った。

（結果）総投票数25票、無効票1票、有効投票数24票。

理事立候補者13名（佐々木実、佐藤明、古舘吉弘、佐藤茂、井口力、松下優子、舘下正則、中渡智彦、高橋則夫、千田節雄、古水健吾、佐々木きみ子、清水寛平）のうち

理事全員が信任され当選となった。そして、当選者全員が理事就任を承諾した。

第7号議案 その他

臨時理事会の結果の報告があり、新会長には佐々木実氏が再任されたことが報告された。その後、佐々木会長より業務執行理事と顧問が発表された。

業務執行理事

筆頭副会長兼学術部長 佐藤明

副会長兼総務部長 古舘吉弘

副会長兼財務部長 佐藤茂

保険部長 井口力

広報部長 松下優子

事業部長 舘下正則

庶務兼組織強化部長 中渡智彦

顧問 神崎浩之（岩手県議会議員）

山本英典（岩手県師会前副会長）

相談役 伊藤庸一（岩手県師会元副会長）

会長会務報告

全鍼協同組合研修会と全国師会長会議報告

会長 佐々木 実

11月12日、東京の溜池山王駅近くの貸し会議室において協同組合の研修会が行われました（午後1時から4時半）。

主な内容は、労災保険についてと令和6年に改定されるあはき保険療養費についてでした。

- ・労災保険は加入者が220名余りと伸び悩んでいる。これは入院給付ばかりでなく休業補償も4日目から対象となるものなのでとても有利。また、障害給付や遺族給付、コロナにも対応しており、掛け金も年1万円程度で（平均的）ほぼほぼの補償が得られる。これからも加入者を増やしていきたい。
- ・労災加入者は年に1度労災研修を受けることになっているが、この研修会をもってそれとしたいし、参加出来なかった人たちには後でYouTube等を見てもらうことでそれに換えたい。
- ・あはき保険診療については、2026年の改正で往療料の距離加算がなくなる方向。
- ・マッサージ料金の包括化という方向の流れから、全鍼では5部位に分けての料金ではなくマッサージをしたか否かで料金を算出する方向（鍼灸のように）意見を出している。そうすると同意書の簡略化にもつながる。
- ・マイナンバーへの保険証導入については、あはきも国がアプリを開発、アップを行い希望者に提供する。また情報漏れ等を防ぐ意味からそれを取り扱うパソコンやスマホは専用のものとする（国が支給）可能性が高い。2024年までに準備が整うかどうかは流動的。

・ あはきもレセプト等電子請求を進めて行く流れにある。

翌日、同会議室で午前11時から午後4時まで全国師会長会議が行われました。

初めに、全鍼が行ったあはき業に対する意識調査アンケートを分析し専門家の菅氏が「アンケートから分かるもの」として1時間半の講演が行われました。

それによると、他職種に比べ女性が極端に少ないこと、若い人が少ないこと。あはきの仕事に充実感と生きがいをもって働いている人が多いこと。学習意欲が高い。

反面、収入面で他を蹴落としてとか他とは違うことをして高めようという意識が少ない。などが上げられ、結びとして、これから医療、介護、災害ボランティア、未病など他職種との連携を進めながら、あはきの価値を高めていくことが大事とのことでした。

会議では、中間期における事業報告、財務状況、各県提出議案などが話し合われました。

- ・ (総務) 会員数が7千人を割った。免許保有証の申し込みも激減している。
 - ・ (財務) 会員減少により収入も少なくなっている。
 - ・ (会長) 今後、代議員会や協同組合、連盟会議等を1日で終わらせたり、理事定数の減、各種会議のズーム化など、財源軽減を考えて行く必要がある。
 - ・ (組織) 会員が増えた県師会は、会長をはじめ個人的にコンタクトして入会者を増やしている。今後、学生へのアプローチを考えて行きたい。
 - ・ (東洋療法埼玉大会) 2日間で現地参加126名、ズーム参加147名。ただ、不参加の師会長が17名もあった
 - ・ (佐賀県) 会員増強の一策として、入会金をなしにしてはどうか? → 新卒制度もあり必要ないという意見も多く、継続審議となった。
 - ・ (福島県) 介護認定研修を地方でも活発に行ってほしい。認定者がいれば開けるという形を作ってほしい。 → (介護) そのようにして行きたい。
- 東洋療法の懇親会をズームでも見られるようにしてほしい。 → オンライン環境なども加味して考える必要がある
- 鍼灸の日を長崎原爆の日の8月9日ではなく、もっと明るいイメージの日にしてはどうか? → あまり賛成者がいなかったので保留。
- ・ (全鍼連盟) 政治活動を行うには金が必要。強制ではないが会費納入をお願いしたい。
 - ・ その他、SNSを活用している県があったら教えてほしい(積極的にやっている所はなし)、鍼灸師会との合併の良い点や悪い点を教えてほしい(行政への交渉がしやすい)。
- などの意見交換がなされました。

また、来年の第22回東洋療法推進大会 in 岩手のPRもしっかりと私の方からさせていただき会議終了となりました。

最後に、来年10月から開始されるインボイス制度について税理士の方から説明がありました。税理士でさえ「複雑、説明が難しい」と言われているこの制度。一応私たちに即した話を聞いて参りましたので、のちほど岩手県師会の研修会としてズームを使って説明会を開きたいと思います。

以上、報告を終わります。

東鍼連第1回理事会報告

会長 佐々木 実

会議は、12月2日の午後7時から9時までズームで行われました。各県師会長、事務局長、財務局長、各部ブロック長の全員が出席しました。議題は、令和4年度の間接事業報告、財務報告、各県提出議案、各県活動状況、その他です。

・東鍼連秋田大会の反省

(秋田) 62名の参加であった。大会内容の連絡等が遅れて申し訳なかった。ズームは昨年の交流会に続いて2回目ということもありスムーズに行えた。

・東鍼連青森交流会

(青森・里村) 全県22名の参加であった。3年振りの現地開催ということで盛り上がった。移動時間が長かったが2日間に渡って楽しんでいただけたのではないかと考えている。→各県とも楽しい交流会であった。

・令和4年度の会費は、後ほど財務(乗田)から振り込み番号をメールで送るので、そこに入金してほしい。

・(会長) 第2回の理事会はいつもなら全鍼の代議員会で東京に集まった時に行っていたが今後は東京ではなくズームを用いて行いたい。時期は、東鍼連青森大会の進捗状況を見ながら決めたい。→全員賛成

・(岩手) 東洋療法推進大会 in 岩手が令和5年10月15日(日)、16日(月)に盛岡市の「アートホテル盛岡」で行われる。参加協力をお願いしたい。

・(岩手) 令和5年度の東鍼連交流会は岩手の番だが、東洋療法推進大会を岩手が主管することから中止としてほしい。→この件に関して各県とも岩手県師会の負担を減らすためにも賛成。

・(学術委員会) これまで学術委員会の職務がはっきりしていなかった。そこで職務内容を文にまとめた。審議いただきたい。即ち、1. 臨床体験発表者の査読、2. 東鍼連大会の講師の選定に協力、3. 臨床体験発表テーマは2年先のものまで決めてほしい。→これらは全て承認された。臨床体験発表テーマは遅くとも前年度の東鍼連大会開催日の代議員会で発表することで意見一致。

・(岩手) 令和6年度の東鍼連大会は花巻市の温泉で行い、臨床体験発表テーマは「感染症に対する鍼灸マッサージケア」とする。コロナ・インフルエンザ・風邪等々感染後の後遺症、あるいはワクチン接種後の副反応へのアプローチなど発表してほしい。

・(山形) 臨床体験発表の回数を多くやった人を表彰してはどうか。→5年ごとの記念大会で表彰する。それは学術委員会が特に優れていると思われる者を数人上げて表彰する。

なお、県師会長が推薦する表彰者は東鍼連に功労のあった者、学術委員会が推薦する者は発表に優れていた者と区別することで一致。

・各県活動

(山形) インスタグラムを始めた。これで会の紹介や入会促進につなげたい。

(岩手) 80周年記念誌を作った。後で各県にも配布したい。

(宮城) 大崎市で東洋医学フェスティバルを開催した。1日ばかりで10時から4時まで食べ物、お灸について、痛みを和らげるツボ、家庭で出来るマッサージ、操体法などの講

演を市民公開講座で行った。同時に、あはき体験コーナーも設置し実施した。また、心の悩み、食育、健康等の相談コーナーも設けた。

- ・(福島) 東洋療法推進大会の懇親会をズームでも見られるようにしてほしい。

→岩手大会で可能かどうか全鍼と話し合ってみる。

鍼灸マッサージの日を長崎原爆の日ではなく別の日にしてはどうか。

→宮城は賛成。岩手は反対。それよりも杉山検校の生まれた日、全鍼で何か大きな行事をして国民に鍼灸マッサージをPRするのも良いのではないか。そうすると年に2度あはきをPR出来る(佐々木)。意見を出し合っただけで終了。

健康づくり研修会の地方開催を全鍼に呼びかける。

→全員賛成

以上、ズームでも充実した論議が出来たことを全員が確認し会議は終了しました。

学術部報告

令和4年度学術部報告

学術部長 佐藤 明

- ・令和4年度生涯研修会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、オンラインやハイブリッド開催しました。その内容と参加者数を次に記します。

1. 6月 5日 第1回生涯研修会 オンライン開催、参加者28名

内容(1) 講師：井口力保険部長

講演：「審査会での審査状況と保険の取り扱い方」

- (2) 講師：佐々木実会長

講演：「業界の中央情勢について」

- (3) 講師：井口力先生(盛岡支部)

東鍼連山形大会学術発表予行

講演：「急性捻挫における鍼通電治療」

- (4) 講師：小松範明先生(宮城県師会、キュアーズ長町院長)

「あはき講座」

講演：「不妊症の鍼灸治療 - 基礎の基礎 -」

2. 7月3日 第2回生涯研修会：東鍼連秋田大会 オンライン開催、会員13名参加

臨床研究発表：「不定愁訴症候群に対するアプローチ」

発表者：井口力先生(盛岡支部)

演 題：「急性捻挫における鍼通電治療」

3. 8月7日 第3回生涯研修会：鍼灸マッサージ実技公開セミナー

・コロナ感染症予防のため中止

4. 9月24日 第3回生涯研修会：東鍼連青森交流会 会員3名参加

・恐山参拝と大間マグロ解体ライブショー

5. 10月23日・24日 第4回生涯研修会：東洋療法大会 in 埼玉

ハイブリッド開催、会場参加会員 3 名、オンライン参加会員 6 名

内容 (1) 特別講演

講師：帯津良一先生（帯津三敬病院名誉院長）

講演：「心と身体の健康と養生」 -医療の将来展望-

(2) シンポジウム-1

「鍼灸マッサージ業界の現状と課題」

(3) シンポジウム-2

「変えよう！変わろう！将来の鍼灸マッサージ業界」

(4) オンデマンド配信-1 法制委員会

「広告ガイドラインのその後と医業類似行為」

(5) オンデマンド配信-2 学術委員会

① 2022年度訪問医療マッサージ研究プロジェクト

演題：「訪問医療マッサージの有効性と安全性に関する研究報告書
患者の状態改善要因と有害事象に関する調査」

② 臨床・研究発表（敬称略）

・大阪府 古田高征

演題：「介護予防運動教室における鍼灸施術にて経験した2症例」

・神奈川県 朝日山一男

演題：「東京2020報告」～ここから学ぶもの～

・神奈川県 藤田将司

演題：「東京2020参加活動報告」

・神奈川県 泉田博之

演題：「認知症デイサービスからの提言」

・神奈川県 榎本恭子

演題：「電子映像による脳の影響に対するアプローチ」
～鍼灸・運動療法用いて

6. 令和5年2月12日 第5回生涯研修会：講演とあはき講座

ハイブリッド開催、会場参加会員 12 名、オンライン参加会員 8 名

午前の部：講演

講師：日野沢瑛（ひのさわひなわ）先生

（鍼灸指圧 合同会社 Akari サロン代表）

講演：「岩手にヘルスキーパーを！サブスクの鍼灸院に至るまで」

実技：「身体の連動・心の連動！これからのセラピストに求められる
技術とは！？」

午後の部：あはき講座：実技公開指導

(1) 健康づくり・介護予防体操指導

実技：① 経絡テストとストレッチ

② 貯筋運動

講師：① 袖林広正法先生（盛岡支部）

②清水寛平先生（健康づくり委員会）

(2) 鍼灸実技公開指導

実技：美顔鍼

講師：佐藤明先生（学術部長・はまなす鍼灸治療院院長）

(3) マッサージ実技公開指導

実技：①腰痛のマッサージ施術

②腰痛のマッサージ施術

講師：①伊藤庸一先生（相談役・伊藤はりきゅうマッサージ治療院院長）

②佐々木実先生（会長・佐々木治療院院長）

・ 1年間を通じた受講者数は、のべ56名、生涯研修修了認定証の申請者は7名でした。
以上の通り報告と致します。

保険部報告

東鍼連保険部長会議報告

保険部長 井口 力

東鍼連保険担当者会議が、6月8日午後7時30分から9時までズームで行われました。
当会からは私と佐々木会長とが出席しました。（欠席青森県師会）

話し合いの内容は、まず施術所の施術者と出張専門の施術者が解る様に見直す理由について各県の意見が出ました。

- ・ 距離加算を廃止したい前置きなのか
- ・ 2026年頃までに往療費自体を廃止したいのではないか
- ・ 柔整の請求に比べ鍼灸マッサージの請求は単価が高く今後目をつけられやすいのではないか

など不安視する意見が多く出ました。

その他、各県の審査内容の報告（月に16回以上の対応、鍼灸とマッサージの併用同一部位での医療との併用など）があり、どこの県も審査は現在のところ、そこまで厳しくはないとの事でした。

また、自賠償保険の取り扱いをやすくする要望が全鍼に通り、患者へのパンフレットや保険者への要望書をこれから作成する予定との事でした。

東鍼連保険担当者会議

保険部長 井口 力

会議は令和4年11月17日にズームで行われました。

1. 令和5年度第22回東洋療法推進大会 in 岩手大会は来年の10月15日、16日にアートホテル盛岡で開催が決定したと佐々木会長から説明があった。200人参加、その他ハイブリッド方式で行う予定で参加費も今年の埼玉大会と同等で考えているとの事。

2. 各県師会の話題など近況報告

コロナ禍の為、どこの県も特養施設などには訪問マッサージに入れてはいない。その他特に変わった事はない。

3. ブロック長の交代のお願い。

宮城県師会千田栄さんがリンパ腫のため、ブロック長を交代したいとの事だったが、後任はとりあえず保留する、となった（福島県師会の松前先生にお願いする予定だったが、本人が欠席のため）。

組織強化部報告

東鍼連組織強化部担当者会議報告

組織強化部長 中渡智彦

6月10日、8時から東鍼連組織強化部担当者会議がオンラインで行われ、青森・岩手・山形・福島から2名、秋田・宮城からは1名の10名の参加でした。

最初に、各県師会組織強化部担当者の自己紹介を行い、続いて各県の状況を発表しました。

会員数は、総会員数、視覚障害の会員数の順に書きますが、青森55、19、岩手92、67、宮城116、52、福島80、20、秋田54、山形86、21名と岩手だけ視覚障害会員の方が多いのはびっくりしました。

令和3年度の活動報告では、コロナ禍の影響から東鍼連山形大会、東洋療法推進大会 in 大阪、東鍼連秋田交流会にオンラインでの参加のほか、芋煮会を行ったところもありました。

各県から「ZOOMの使い方が分からず、研修会に出れない人がいるので、どのようにサポートしたらよいか」という話があり、岩手からは「佐々木会長自らZoomを使いたい人は遠慮なく言って欲しいとメールで配信し、少しずつZoom参加者も増えてきた」。

福島からは「ZOOMに詳しい人が会員の家を運び、教えた」と事例が話されました。

入退会者の状況は、岩手は、入会者はなく退会者は8名、福島は退会者が7名と、各県とも入会者より退会者が多い状況で、コロナ禍で売り上げが減り施術所閉鎖、死亡や高齢化により退会、会費の金額に見合ったメリットがないなどが上げられました。

令和4年度の取り組みとして、青森県師会からはランチオンセミナーや事業を通じて、新入会員の親睦会を5月29日に行ったほか、宮城県師会では新入会員懇親会を行う予定とのことでした。

最後に、東鍼連秋田大会と、東鍼連青森交流会の呼びかけがあり、リモートですが秋田大会で会えることを確認して、会議は終了しました。

健康づくり委員会報告

令和4年度活動報告

委員長 古水健吾

1. 第26回勉強会と打ち合わせ会議
 - ・新型コロナ感染症予防のため中止された
2. 8月7日鍼灸マッサージ県民公開セミナー2022
 - ・新型コロナ感染症予防のため中止された
3. 健康づくり教室の開催
 - ・新型コロナ感染症予防のため中止された
4. 健康づくり委員会会議開催
 - ・新型コロナ感染症予防のため中止された
5. 全鍼師会地域健康づくり指導者研修会参加
 - ・3月に古水委員長がオンデマンド配信された情報を視聴した

第1回全国地域包括ケア担当者会議報告

古水健吾

ミーティングは6月11日（土曜日）15時から17時までで行われました。参加者は、全鍼の介護委員会委員・地域参加者で30名ぐらいだったと思います（もう少しいたかもしれません）。

内容は、各地域での現状・取り組み発表、今後の地域包括ケア担当者活動についてでした。

各地域での現状・取り組みについては、参加者が自己紹介をしながらの発表でした。現状包括ケアシステム自体を理解するのがまだ難しい。取り組みが進んでいない。行政とのかかわりがむずかしい。コロナ禍で、活動が2年ほどできていない。視覚障害者協会と合同で研修会をしている。ズームなどを通し情報交換をしているなど。

<取り組み>

ディサービス・居宅支援事業所などの経営の中でやっている。訪問マッサージの中でやっている。個人の持っている資格（鍼灸マッサージ・ケアマネジャー・介護福祉士・成年後見人など）を通しての活動、治療院での介護相談、地域の公民館・サロン・カフェ（認知症カフェを含む）などでの介護予防教室の開催。この教室では、東洋医学講座や鍼灸マッサージなどを取り入れて行っているそうです。

また、認知症ケアに鍼灸マッサージが効果があるとの話もありました。

<今後の地域包括ケア担当者活動について>

地域包括ケアの構築は、2025年までに国が完成させるという目的を持っている。それまでに、ある程度の形を作っていないと他職種連携の中から鍼灸マッサージ関係は、はずされてしまうという可能性もある。このような中、全鍼と各地域包括ケア担当者がネットワークを構築するために情報交換をしていきたいそうです。

今後、今回のような会議を3か月に1回（3・6・9・12月）行って意見交換していきたい

たいそうです。

今回、地域包括ケア担当者ミーティングに参加して、各地域での現状・取り組みの様子を聞くことができ、色々と参考になりました。これからの健康づくり委員会活動に活かしていきたいと思います。そして、会員の皆さんと意見交換しながら情報発信していきたいと思います。

全国地域包括ケア担当者会議

古水健吾

会議は令和5年3月4日（土曜日）13時から14時まででZOOMで行われました。

「議題：これからの地域包括ケア担当者の活動・どのように地域の医療介護を支えるべきか？」

ここでの内容は、各地域での実情・取り組み、今後の地域包括ケア活動についてでした。

<実情>

- ・コロナ禍であまり活動できなかった
- ・地域包括ケアには興味はあるが活動にはいたっていない
- ・介護予防について会員への発信力が弱いように思われるのでこれを強めたい
また、健康経営の情報も聞きたい
- ・健康づくり研修会は、続けてきたが参加者が少なくなってきて令和4年度は中止した
今後は仕切り直して、内容、講師、予算などを練り直してみたい
- ・患者さんに要介護の人が増えてきているので、介護予防にも力を入れていきたい
- ・おもに訪問マッサージをしているが、介護予防にも興味があり参加した
- ・行政とのかかわり方が難しい
- ・健康づくり研修会への参加者が少ないところもあるようだが、つねに20数名の人たちが参加してくれている、やる気はある
- ・健康づくり研修会は続けていて、ステップアップを終えている人も30人位いるが、認定研修を東京まで行って受けるというのに躊躇している人が多い
- ・認定が地域でも受けられるよう、審査員の派遣など考えて欲しい

全鍼から、今後も地域での健康づくり研修会開催の応援をしていきたい（認定をふくむ）

<取り組み>

- ・療養費を使って訪問で鍼・灸・マッサージをしているが、ケアマネジャーでもあり居宅介護支援事業所も経営している。その繋がり、地域包括センターとやり取りしている
- ・介護予防についての取り組みはあまり進んでいないが、昨年ケアマネ協会と交流会をした（ZOOM）。その中で、東洋医学はどういうものか、西洋医学とのちがいなど話した（動画でツボ取りをした）。また、グループ討議で、鍼・灸・マッサージのメリット訪問マッサージなどの話をした。これらについて、興味・関心を持ってもらえたということもあり今後交流会を発展させていきたい
- ・認知症・うつ病・統合失調症の患者さんへのアプローチとして、ヘッドマッサージ・ハンドセラピーをやっている
- ・健康づくり委員会で作ったDVDを活用している

<今後の活動>

- ・介護保険の業界で、鍼・灸・マッサージを療養費を使ってできるというのがあまり知られていないようだ。できるという情報の提供や提案などしていくのも必要ではないか
- ・他職種間（鍼灸マッサージ・ケアマネ・介護・医療・福祉など）で情報の共有と連携していくことも必要ではないか。難しいところはあるが行政・包括センター・社協などと関わっていく

<全鍼から>

- ・健康づくり委員会では、動画を作りそれをQRコードで読み込めるようなチラシを作成中。内容はコロナ禍でもあったので家庭でできるような運動の形で、一般の人達に見てもらえるような内容にした。これを行政・包括・一般の人達に持って行って活用してもらいたい
- ・地域包括ケアは、2025年度から本番になるがまだ参入には遅くはない
- ・今後も包括ケアについて、理解をしてもらえるよう情報の提供や意見交換などして行きたい

今回の会議に参加して、地域の実情や取り組みの様子を聞いて参考になりました。

今後の活動として全鍼からも出でいましたが、介護予防ということだけではなく健康づくりの底辺を広くした形で活動を進めていっていいのではと感じました。

今後も、情報の発信とともに意見交換しながら活動していきたいと思えます。

令和4年度各種会議報告

全鍼師会定時総会報告

代議員 佐藤 明

令和4年5月22日（日）、13時から17時の予定で全鍼師会定時総会に出席しましたのでご報告いたします。

まず、冒頭からビックリする情報がありました。伊藤久夫会長が5月13日に心筋梗塞で倒れたという。しかし、27日には退院予定ということと、病院からオンラインで声を聞くことが出来たので、ひと安心して総会に入りました。

開会宣言に続き、中野義雄会長補佐が伊藤会長の代わりにあいさつを行った後、議長、議事録記録人・署名人の選任を行い、前年度事業報告と決算報告は承認され、今年度事業計画の報告と予算報告も全員の拍手で承認されました。

新しい情報として、学術委員会からの報告で令和4年度も生涯研修は15単位で認定修了申請できることになったとの報告がありました。

次の議題の地方提出議案については、5つの県師会から出され、時間を費やして質問や答弁がありましたが、特段の重要案件というほどではありませんでしたので割愛します。

最後に、今秋の10月23・24日に開催される、東洋療法推進大会 in 埼玉について、埼玉県師会会長から参加の呼びかけがあり、予定時間が大幅に短縮して15時過ぎに終了しました。

全日本鍼灸マッサージ師連盟総会報告

佐藤 明

当初、翌日の23日に予定していた全鍼連盟総会が定時総会が予想より早く終了したため、15時半から前倒しで開催されました。

前年度事業報告と決算報告は承認され、今年度事業計画案と予算案も全員の拍手で承認されました。

また、今回の連盟総会の要点としては夏の参議院議員選挙対策が最重要課題であることと、立候補予定者の「自見はなこ」参議院議員の紹介などがあり、組織一丸となって応援しようということになりました。

日本鍼灸マッサージ協同組合総代会報告

佐藤 明

5月23日、9時から総会が開かれ、高野広行理事長が、労災保険特別加入について力を入れてあいさつされました。そして、前年度事業報告と決算報告は承認され、今年度事業計画案と予算案も全員の拍手で承認されました。

また、協同組合では新しいホームページを立ち上げて、ネットショッピングや労災保険特別加入についてのページを新設してサービス向上に取り組んでいることも紹介されたので、会員の皆様におかれては、ご利用されるようお勧めします。

国民のための鍼灸マッサージを守る決起集会報告

佐藤 明

10時半から特別講演があり、政治評論家、全鍼連盟相談役でもある森田実先生の「東洋療法は世界を救う」という、約30分ほどの講話がありました。

先生は現在満90歳だそうですが幼少期は病弱だったが灸施術で丈夫になり、成人してから仕事で字を書くようになり、マッサージ施術で健康維持してきたそうです。

そして、高齢になってからは熱中症や虚血性心不全、間質性肺炎などの病気にかかったことで腰や膝が弱くなり、鍼灸マッサージ施術で健康を取り戻したという経験談を語られ、ご自身の経験を踏まえ、3年前から、健康管理のために東洋療法の施術に切り替え、西洋医学は受診することをやめたのだそうです。

世界でも徐々に東洋療法が広がり始めている、東洋療法はプラスのみである、などの東洋療法を絶賛するお話をされて終了しました。

その後は、総決起集会に移り4項目の要望書を採択しました。1、医療と鍼灸施術の併給を、2、鍼灸マッサージ師も医療機関同様にコロナ対策等の措置を、3、国家資格外行為による健康被害の撲滅を、4、ハンディキャップを抱え、頑張っている視覚障害者に応援の手をとるということです。そして、「鍼灸マッサージを考える国会議員の会」いわゆる、あはき議連会長の衛藤晟一（えとうせいいち）参議院議員はじめ、20数名の与党国会議員が随時挨拶に立ちながら、あはき業の発展について、4項目の要望にしっかり応えて行きたい。については、夏の参議院選挙の支援を宜しく頼みたいということでした。

最後に、往田和章（おおたかずあき）副会長の音頭により、与党国会議員団とフロアの会

員全員が参議院選挙とあはき業発展に向けて、「ガンバロー」を三唱して、総決起集会は幕を閉じました。

東鍼連秋田大会代議員会報告

代議員 古館吉弘

会議は7月3日（日）午前10時よりオンラインにより開催されました。最初に、今回の司会進行役の笹川隆人青森県師会会長により資格確認が行われ会議が成立することが告げられました。

次に、平栗辰也福島県師会会長による開会の言葉、東鍼連会長の佐々木実会長が挨拶を行いました。

議事は以下の通りです。

1. 令和3年度東鍼連事業活動報告と、
2. 令和3年度決算報告並びに監査報告が行われ、すべて承認されました。

次に、

3. 令和4年度事業計画案と
4. 令和4年度予算案が示され、いずれも承認されました。
5. 各県提出議題については

- ・青森県師会よりホテル代などの上昇から東鍼連大会参加費を2万円程度に値上げしたいとの提案があり討議されました。2万円に固定せず、その年の開催県に任せる、国のゴートゥー割引などを使ってはなどの意見も出されましたが、物価の値上がりなどから参加費値上げは仕方がないのではと了承されました。
- ・山形県師会からの提出議題は、学術発表を何度か行った人には東鍼連会長特別表彰を行ってはそのことで、これも全会一致で承認されました。対象を何度発表にするかは後で理事会で話し合うとのことでした。
- ・福島県師会からの「ズームのアカウントを東鍼連で取って使いまわし出来ないか」との提案がありましたが、それは不可能であるということが分かったことや、そうした場合に必ずアカウントを所有するホストがズーム開始に毎回関与しなければならないことなどから提案は取り下げとなりました。

6. その他では、来年度の東鍼連青森大会は7月2日3日（土、日）に八戸のホテルグランドサンピア八戸で行うこと。テーマは「伝えよう受け継ごう東洋医学のあずましの心」、学術発表テーマは「私のおはこ」（自由題）で翌日実技供覧をしてもらう。

場所は八戸インターの近くで、大会は代議員会が75回・学術が45回ということで記念大会としたい。内容は理事会等で検討したいとのことでした。

また、特別講演は「むつはっせん」の社長にお願いしたいとのことでした。

次に、岩手県師会から来年度の交流会を八幡平市で行うことが発表され、詳しいことについては決まり次第報告するとのことでした。

その他、学術委員会から学術委員会の在り方について疑問が投げかけられ、もう少

し委員会で話し合い理事会に提案することとなりました。

各県師会とも高齢化、会員減が続いているが若い人たちや学生を取り込む工夫の発表がありました。どの県も大きな成果は上がっていないとのことでした。

最後は、福島県の平栗会長の閉会の言葉で代議員会は終了しましたが、今回の会議は資料が前日遅く送られて来るなど資料の検討が出来ないままに会議に臨んだり大変な代議員会でした。

東鍼連学術委員会会議報告

学術部長 佐藤 明

会議は、6月18日(土)19時～21時まで、Zoomのオンラインで開催されました。出席者は各県から1名と開催県の秋田からは2名でした。

協議の主なテーマは、「研修会について」の情報交換でした。次の①から⑥の項目について各県の学術部長から報告や意見交換がありました。

- ①保険部や組織強化部などの他部署主催、または連携した研修会の実施状況については、各県とも保険関係の研修は取り入れているようでした。
- ②本年3月にプロ野球選手への折鍼事故があった。各県では医療事故に繋がるヒヤリハットの報告や問題点の共有はしているか。これについては、医療事故予防研修会を行った県も多いようでした。全鍼110番の加入数が山形は半数あるが、保険鍼灸師会の入会要件になっているからで、それ以外の県では少ないようです。また、医療事故は、それぞれの方法で情報共有に努めているが、岩手よりメール使用率が低いところが多く、年に1回とか2回発行する会報に掲載して届けている。メーリングリストで情報配信しているが登録数は少ない、などの報告がありました。
- ③リモート開催の研修会での工夫している点や改善点はあるか。スマホやPCを使用していない視覚障害者の参加状況についてはどうか。これについても総じて、参加率が低く各県とも手探りでオンライン研修会を行っている状況のようで、岩手のようにzoom接続方法を個別指導したり、あるいは研修会を録画したものを少人数単位で視聴しているという様子でした。
- ④研修会の講義内容の設定方法について。これは、学術担当者が企画したものや会員の要望意見を理事会承認を経て実施している、というのは各県ともほぼ同じでした。
- ⑤東鍼連青森大会の学術発表テーマについて。これは、青森の学術部長から報告があり、「私の十八番（おはこ）」でした。発表者が得意の治療法を初日に行い、2日目にはその実技公開をしてもらうということでした。
- ⑥秋田大会学術発表者の状況について、秋田の担当者から報告があり、各県から6名の発表者と演題について確定したとの報告がありましたが、乞うご期待とします。
- ⑦その他として、研究発表のテーマについて、統一か自由が良いかについて継続協議となりました。そして、委員会設置の基本と存在意義は、研究発表テーマの選定にあることを確認しました。また、要望意見として、コロナ禍で県外からの講師を招くことを中断していたが、学術委員会又は各県単位で全鍼師会に講師派遣申請を行い、オンライン活

用で東鍼連会員にも呼び掛けて研修を行えば研修単位も増やせる、などがありました。今回の会議の内容について、学術委員会からの要望と報告事項としてまとめ、理事会・代議員会の際に提案することになりました。

以上、予定時間を超える熱心な議論が行われ、夜9時過ぎに閉会しました。

全鍼師会法制委員会 第2回法制担当者会議

法制担当 佐藤 茂

令和4年6月23日の19:00から第2回法制担当者のZOOM会議に参加いたしました。今回も進行を森幸太郎先生が務めてくださり、参加者は全国からでも37名で曜日と時間的にも全員出席は難しいのかもしれませんが。

当初は1時間程度の予定だったのですが、1時間半くらいに延長されました。

今回の議題は以下の通り。

1. 日本民間放送協会への要望書の提出についての意見交換
2. あはき法改正についての意見交換
3. 医業類似行為についての意見交換
4. その他

最初の日本民間放送協会への要望書の提出についての意見交換で、不肖ながら佐藤茂が今会議の先陣を切って、岩手県師会に寄せられた意見をもとに発言させていただきました。

「あん摩マッサージ指圧師以外の者にマッサージという言葉は放送で使用しないようにしていただきたい。」

それに対し、森先生からはマッサージは名称独占ではないので難しいが、そこは工夫して民放にも要望するとのこと。

京都師会の方からも岩手の意見はもっともであると同意的にしてくれました。おそらくはこの都道府県師会の方々も同意見とは思いますが、やはり名称独占ではないのでどうしたものかといったところでしょうか。

民間放送協会の議題だけでいえば、東北勢からの意見が目立ちました。

お次の、あはき法改正の議題では、これは様々な対立意見がありそうだからと今回はあまり触れられず。

医業類似行為の意見交換では様々な意見が交わされました。

全体的には意見の発言する方は、ほぼ決まっていた印象を受けました。栃木県師会の方は特にあはき法への見解があるようで、論文も全鍼に送ったとのこと（全鍼は無反応だが）。

他には、国家免許はあるが広告規制の制約を受けるから保健所に届け出を出さずに、全体の看板を出し開業する者の存在や福井県ではふるさと納税の返礼品に足裏マッサージのサービス券の話が挙がったとか。

茨城県ではコロナの感染症対策での補助金は無免許の業者には支払われたが、免許持ちには医療機関なのだから感染対策できているのが当たり前と補助金なしのケース。

そして、今回個人的に一番の驚きの鹿児島県での免許持ちの指導の下で免許の所有してい

ないものが施術の業を行っているという、「香ばしい ※今風の言葉使いで、きな臭いとかヤバイ奴の意味」報告がされました。

なかなか私たちの業界は混沌としてきたかもしれません。

今回は以上とさせていただきます。

全鍼師会視覚障害委員会 第2回視覚障害委員会報告

視覚障害担当 中渡智彦

6月6日、午後7時からZOOMで会議が行われ、42名の参加でした。

1. 健康保険の取扱について

レセプト作成を行うソフトとして、群馬県師会では、あはきカルテV21を使っている。愛知県では、レセコンソフト（音声入力可）鍼フォニーを使用していて、費用は、コスト：会員年会費1万、初期費用1万2千円かかることが話されました。

2. 訪問マッサージについて

兵庫県師会の先生が重度障害者等就労支援特別事業の支給決定通知を受け、今月から活用出来ることになり、小規模デイサービスへの送迎、マッサージ先への訪問在宅の送迎と室内の同行をお願いすることにしたと報告されました。

3. 経営力について

仲澤委員長からは、FBに投稿した内容を小冊子にまとめ、暫く来院していない患者に送付したところ反応があった、治療院を経営されてる先生方からは、GOOGLE検索した際に上部に名前が出るように工夫（お金をかける）することで良かったが、現在はブログ、インスタグラムなどが主流になっている、地域の情報サイトに掲載している。HP作成等は投資としてお金を掛けるなどの経験談が出されました。

4. 臨床力について

視覚障害者が参加しやすい研修会にするには、3人1組にして晴眼者2人、全盲1人のペアにする。講師の実技内容を全盲者に伝え、晴眼者一人を実験台にしてその内容を実際にやってもらいながら、別の晴眼者からアドバイスを得られる。

実技指導の時にここ・あっち・そこなどの言葉を使わないように講師へ伝える、デモンストレーションの後に個別にレクチャーするなどの意見が交わされ、有意義な会議でした。

次の会議を11月頃に行うことを確認して、9時過ぎに終了しました。

第3回視覚障害委員会報告

中渡智彦

11月14日夜7時からオンラインで会議が行われ、参加者 視覚障がい都道府県代表者29名、全鍼師会視覚障害委員3名、全鍼師会業務執行理事2名、合計34名で開催されました。

最初に、お亡くなりになりました、奈良県の喜多嶋先生に対するご冥福を祈る黙禱を捧げ

た後、3つの問題について討議しました。

1. 施術繁栄に繋げる経営対策では、新規患者の獲得のため、SNSを使い、治療院の宣伝をしながら、若い患者層の獲得を行っている先生や、SNSで宣伝しなくても患者さんから1週間に何人か紹介されるので（クラブ活動中に怪我をして良くなった後、その両親が別な人を紹介するなど）、患者さん自らSNSに治療院の良さを投稿すると自分自身の予約が取れなくなるので、宣伝せずに経営している事例が報告されました。
2. 制度や政策を考える戦略では、通勤時や就労時にサポートしてもらえる「重度障害者就労支援事業」を利用して、神戸の先生が4か所の小規模デイサービスで働きながら施設までの通勤時、施設内での施術報告書を書いてもらっている事例が話されました。また、福岡市では2年に渡り役所と交渉しているものの、「情報ありがとうございます。その方向で進むように、前向きに検討します」と回答はありますが、全然進んでない事例が話されました。この制度は、厚労省が認めて2年経ちますが全国的に行われてない市町村が多く、これから議員さんに働きかけて行かなければならないと思います。
3. 合理的な施術方式では、「がん患者の浮腫を目的で、リンパドレナージュを勉強するのはどうか」という提案に対し、「資格を取るまでが大変で、お金もかかり、無理なのでは？」という意見が出されました。

また、「かつぼうを勉強するのはどうか」という提案に対し、「1回の受講で1万円を払って勉強して、何年受講したら治療に結び付けられるのか、指導者の金儲けにしかかってないのでは？」という意見が出され、次回の会議での討議事項となりました。

最後に、ZOOMをスムーズに使えるように、会議の他にメーリングリストを活用して、積極的に投稿できるよう勉強会をすることを決め会議を終了しました。

東洋療法推進大会 in 埼玉視察報告

副会長 佐藤 茂

10月23日から24日にかけて、埼玉県熊谷市にて東洋療法推進大会に現地参加をさせていただきました。参加者は、岩手からは佐々木実会長、佐藤明副会長、あと私、佐藤茂が現地参加。ZOOM参加は6名。

今回の現地入り参加には意味があります。何故なら来年の東洋療法推進大会は岩手の盛岡で開催が決定しています。そのために大会運営の視察と次期開催県としての挨拶を主な目的とし参加しました。

まずは、22日の大会前日に会場の四季の湯温泉ホテルヘリテージへ向かい、全鍼の理事会と大会実行委員会に出席させていただき、大会の収支予算のことや大会の打ち合わせをしました。今回から大会はどこの県でも開催できるようにと、全鍼と開催県の役割分担をして開催県に負担をかけないようにとした大会になります。

翌日12時から大会開始、参加者はZOOMも合わせて200人以上のようですが、現地の会場に関しては思っていたより少なく感じました。東鍼連より少し多い位な印象です。

開会式の後に帯津良一先生による特別講演。次に、シンポジウムがあり、今大会のテーマ、『変えよう！変わろう！将来の鍼灸マッサージ業界』なので、会員に忌憚のない意見を語ってもらったわけですが、あまり発言する人は多くはなかった印象を受けました。無免許の話も振ってきましたが、あまり炎上しませんでした。200人以上程度の参加者では、それほど意見は出ないのかもしれませんが。

この後には懇親会があり、太鼓や占い師、矢沢永吉の物まねそっくりさんのアトラクション。中締めには岩手勢登壇し、佐々木実会長の次期開催県としてのご挨拶と軽く岩手クイズ大会。当選者には南部鉄器の風鈴と急須をプレゼントいたしました。二次会の前に花火の打ち上げを見学（これはおそらく埼玉県師会が準備したと思われまます）、そのまま2次会会場へ。

翌日、訪問マッサージに関する研究報告が発表され、前日のシンポジウムで出た意見の全鍼理事らの回答。閉会式にて埼玉から岩手に大会旗引継ぎのために再び岩手一同登壇。山岸埼玉県師会会長から佐々木岩手県師会会長に旗が渡されました。

最後に、理事や実行委員全員で集合写真を撮り終了。

以前、金沢の大会に出席したことがあります。そのころと比べれば規模はかなり縮小されました。それだけ貧しくなったということでしょうか、時代の流れですね。だからこそ、色々な地方でもできるようにと工夫しなくてはならないと伊藤久夫会長の考えなのでしょう。

来年の岩手大会は意義のある大会だと思います。岩手でもできるなら自分の県でもできると他の県師会が勇気を持てるようになるための起爆剤になることでしょうか。そのためにも岩手県師会会員の皆様のご協力が必要になります。規模としては東鍼連より少し大きいくらいで、そこに全鍼の協力もあります。

私たちの業界のためです。何卒、来年はご協力のほどをお願い申し上げます。

第44回東北鍼灸マッサージ学術大会秋田大会報告

学術部長 佐藤 明

令和4年7月3日（日）12時50分から17時まで、ZOOMを活用したオンライン方式で東鍼連秋田大会・学術大会が開催されました。

大会テーマは「アフターコロナの健康は東北から世界に発信」というものでした。参加者は東北全体で56名、本会からは会員13名の参加者がありました。

はじめに、高橋義昭秋田県師会副会長の開会のことばに続き、高橋和彦秋田県師会長の歓迎のあいさつがあり、佐々木実東鍼連会長からはオンライン開催の意義を強調されたあいさつがあり大会は開始されました。

そして、今年の学術講演は、「北京オリンピックとコンディショニングについて」というものでした。講師は、向川桜子（むかいがわさくらこ）さんで、2022年冬季五輪アルペンスキーヤー（富士フィルムBI秋田株式会社所属）という方でした。

地元出身でもあり、オリンピック選手としての経験談と普段から実行しているトレーニングとケアについて、写真や動画を紹介しながら話していただきました。また、ワールドカッ

プ遠征や世界選手権、北京オリンピックの回転のレースの様子、選手村の建物内外の様子などの動画も紹介していただきました。また、中学時代からケガが続いていて、大学生や社会人になってからは、競技の前後にマッサージや鍼治療を受けていることや、ヨーロッパ遠征中は自分で膝周辺に鍼施術していることなどの話をしていただきました。

さらに後半は、向川桜子さんがオンライン越しに、毎朝実行している体中の筋肉を目覚めさせるという運動を細かく実演していただいて、さすがにアスリートならではの体を張った講演となりました。

つづいて、学術研究発表になり、テーマは「鍼通電療法について」でした。発表は青森県から時計回りの順番となり、本県代表の井口力氏は2番目の登場でした。演題である「急性捻挫における鍼通電治療」の症例発表は、6月のリハーサルの時よりも詳しく述べられていて、数名から質問もありそのつど明快な回答をされていました。

研究発表の6席は、発表者のオリジナルの研究が目立ち、それぞれ内容もよくまとめられていたと思います。また、6名の発表者に対して、それぞれ数名の質問や活発な意見交換もあり、参加者はとても勉強になったのではないのでしょうか。

個人的には、山形県の森輝彦先生による、低周波通電用のワニ口クリップを自分で改良された話は興味を引きました。

佐々木実東鍼連会長から6名の発表者への講評があり、臨床研究発表は終了しました。

次に、各会議報告があり、午前中に行われた代議員会報告、大会前に行われていた、保険部担当者会議報告、組織強化部担当者会議報告、学術委員会会議報告が行われました。

そして、次期開催県である、笹川隆人青森県師会会長からご案内があり、来年7月2・3日（日・月）に予定し、八戸市のホテルで対面式で開催するという説明がありました。

最後に、高橋秋田県師会会長から参加者にお礼の言葉が述べられ大会は終了しました。

大会終了後に、オンライン懇親会が開催され、本会から4名、全体で20名ほどの参加者がありました。自己紹介や近況報告、昔話などの情報交流を行い、約2時間ほどで懇親会は終了となりました。

東鍼連青森交流会に参加して

大船渡支部 田沢博崇

9月24（土）、25（日）の二日間東鍼連交流会が青森県師会主催で行われ、岩手県師会からは佐々木実会長と奥様の由美さん、盛岡の大澤さんと私の4人で参加しました（6県から23名出席）。

24日は新幹線で七戸十和田まで移動、そこで宮城。福島それぞれの県師会のメンバーと合流。そこから青森県師会の計らいで2台の車に分乗して移動を開始。途中横浜町の道の駅で昼食を摂った後、恐山に向かいました。

そこでは岩手から行った4人はご祈禱をしてもらいました。自由行動でしたので温泉に入った人、湖や賽の河原の散歩など様々でした。

私たちはご祈禱してもらった後、敷地内を巡って歩きました。複雑怪奇な階段もあり、大分足にきました。

そのあと今夜の宿泊地、スパウッド観光ホテルに移動。小規模なホテルではありましたが、宿泊は私たち貸し切りということでゆっくりと温泉につかることが出来ました。

6時から懇親会が始まり、豪華な料理にびっくり！自己紹介と近況報告があり3年ぶりの対面での交流となり大いに盛り上がりました。そのあと、場所を移し二次会となりました。ここでも食とお酒が進んだようです。そのあと部屋に移動しそのまま三次会となりました。私たちは11時半で引き上げましたが、朝6時まで飲んでいた人たちもいたようです。

次の日、朝8時半にホテルを出発。一路大間に向けて移動を始めました。大間には1時間半くらいで到着。マグロの解体ショーが始まるまでの間、「本州最北端」と書かれたモニュメントの前で記念撮影。また、ここで獲れた一番大きなマグロ440kgの実物大のモニュメントがあり、それにまたがって写真を撮る人も。

昼食ではマグロ定食を食べました。ビールも飲みました。

その後、会場に移動しマグロの解体ショーが始まりました。150kgのマグロを二人の人が出刃包丁できびきびと五枚におろして行きます。その様子を説明してくれる人もいて、ユーモアあふれる説明やクイズで盛り上がりました。解体したばかりの生マグロの販売もしていました。

それから、私たちは七戸十和田駅へ向けて出発しました。途中青森で三本の指に入るおいしさと言われているソフトクリームを食べ、一番おいしいと言われている豆腐屋さんでおからハンバーグや豆腐コロッケを買いました。

午後4時頃、無事七戸十和田駅に到着、解散となりました。

今までコロナ渦でなかなか対面での会合もできず、2019年の山形交流会以来3年ぶりに皆さんで集まることができました。ズームでの会議や研修会が定着してきた昨今ではありますが、こうして集まりお酒を飲み交わしながら行う情報交換は大きな意義があると思います。3年振りということもあって皆さん喜びもひとしおでした。

最後に、今回の交流会を企画、準備、運営をしてくださった青森県師会の皆さん、二日間長距離を運転してくださったドライバーの皆さん、ありがとうございました。

私事ですが、そのあと私は次の日病院受診のためそのまま仙台まで行きワシントンホテルで一泊となりました。

令和4年度各支部活動報告

大船渡支部

支部長 古水健吾

この3年は、新型コロナウイルス感染拡大により、いろいろな注意や宣言が出され、私たちの行動様式は大きく様変わりしました。このような状況の中で支部活動もいろいろと制限されながらの活動になりました。令和5年度もコロナの感染状況をみながらの活動になると思いますが、できればみんなで集まり近況報告や情報交換をしたいものです。より早い終息を願うところです。

一関支部

支部長 舘下正則

会員の皆さん、元気にお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスが流行して4年目へ突入しましたが、猛威を振るっていた頃から見れば減少しつつ、ウィルスも弱毒化へ向かっているように思われます。

このような状況の中、明るい話題としてWBCで侍JAPANが優勝されたことによって多くの方が感動を貰ったことでしょう。

活動報告

令和4年4月14日 定期総会（福祉センター13階）会員8名出席

会員動向

令和5年3月3日 阿部義博さんが退会届を提出されました

昨年の第39回一関国際ハーフマラソン大会マッサージボランティアは、新型コロナウイルスの拡大のため中止となりました。

令和5年では、会員の皆さんと対面でマスクなしでの会話ができたらと思っております。

盛岡支部

支部長 佐藤 明

令和5年に入り、丸3年続いた新型コロナウイルス感染症騒動がようやく落ち着いてきたようです。耐え忍んだ長いトンネルの出口が見えてきたような感じさえします。

そんな中、岩手県民にとって特大のホームランとなる、WBC優勝というスペシャルギフトが届けられました。本県出身の大谷選手、朗希選手をはじめとする侍ジャパンの大活躍に全国民は大きな感動と興奮を与えられました。

さて、年度初め4月の支部定例総会は、少人数の出席者ながら提案された議題は全て承認されました。また、一年間を通してみると、コロナ禍ではありましたが、前年度よりは会議や研修会への参加者数が増えるなど、活動量が回復してきたように感じました。

次に、盛岡市委託事業の健康づくりマッサージ等指導教室は、4月、5月はコロナ3密対策として、参加者に運動・体操資料を郵送し指導員が個別に電話で指導するという方法で実施されました。6月以降は、老人福祉センターにおいて対面式で指導が行われ、高齢者の健康保持増進と介護予防に貢献できたと思います。

また、7年目となる支部情報メールを21回配信し、支部の活動状況のお知らせや諸連絡の一斉送信は会の友和の役割を果たすことができました。

続いて活動日誌による報告を致します。

4月10日 令和4年度支部定例総会が開催され、会員46名中、出席者10名、委任状27名、計37名が出席した。議長は袖林広正法氏が務め、提案された全議案が全会一致で承認されたほか、役員改選があり佐藤明氏が支部長に再選され、平子利男氏が監事に再選、上舘宏氏が監事に新たに選出され、その他の役員は全員再任された。総会終了後、第1回支部役員会が開催され、役員5名が出席した。（アイーナ）

- 5月 8日 岩手県師会第81回定時総会が開催され、会員15名が出席し、ZOOM参加が4名の計19名が出席、委任状は15名。総会后、岩手県師会創立80周年式典があり、会員13名が出席した。(アイーナ)
- 6月 5日 岩手県師会令和4年度第1回生涯研修会がオンライン開催され、会員11名が参加した。
- 6月25日 健康づくり・マッサージ等指導教室第1回全体ミーティング開催。指導員6名出席。(アイーナ)
- 7月 3日 東鍼連秋田学術大会(第2回生涯研修会)がオンライン開催され、会員7名が参加した。臨床研究発表は当支部の井口力氏による「急性捻挫における鍼通電治療」。終了後、オンライン懇親会が行われ会員4名が参加した。
- 7月31日 第2回支部役員会開催。役員4名出席。(アイーナ)
- 9月24・25日 岩手県師会第3回生涯研修会(東鍼連青森交流会)が開催され、会員2名参加。
- 10月 8日 健康づくり・マッサージ等指導教室第2回全体ミーティング開催。指導員4名出席。(アイーナ)
- 10月23・24日 岩手県師会第4回生涯研修会(東洋療法推進大会 in 埼玉)が開催され、現地参加3名、オンライン参加2名の会員が参加した。

令和5年

- 1月21日 岩手県師会執行部会議終了後、新年会が開催され会員4名、付添い1名が参加した。
- 2月12日 岩手県師会第5回生涯研修会がアイーナにおいてハイブリッド開催され、会場8名、付添い1名、オンライン3名の会員が参加した。終了後、懇親会が開かれ会員3名と付添い1名が参加した。(魚民)
- 2月25日 健康づくり・マッサージ等指導教室第3回全体ミーティング開催。指導員6名出席(アイーナ)
- 3月 5日 第3回支部役員会開催。5名出席。(アイーナ)
- 3月25日 健康づくり・マッサージ等指導教室第4回全体ミーティング開催。指導員6名出席。(アイーナ)

次に、会員動向についてですが、令和4年度の入会者はありませんでした。退会者は、竹井誠(たけいまこと)さんでした。竹井さんは13年間在籍されました。支部を代表して在籍中のご貢献に対して心から感謝を申し上げます。

令和5年度は、支部への入会希望者が複数名あり、明るい兆しが見えてきました。3年間のコロナ禍の影響から脱却し再び力強く立ち上がる時が来ました。侍ジャパンに学び、優勝達成を信じる個々の熱量の結集が物事を成就するというを現実化し教えてくれました。

会員の皆様におかれては、東洋療法推進大会 in 岩手に向けて、団結力を高め積極的な活動を展開して参りましょう!

二戸支部

支部長 古舘吉弘

2023年も明けて間もなく2か月が過ぎようとしています。皆様、いかがお過ごしでしょうか。コロナが発生してから、早や3年が過ぎようとしています、少なくなったかと思うと再び感染者が増えたりの繰り返しでなかなか終息には至りません。

また、世の中いろんなことが次から次と出てきていましてとにかくウクライナとロシアの戦いはまだまだ終わる気配はないようです。その影響もあるのかいろんなものが値上がりし生活するのが大変になってきております。中でも、電気料金や食料品が目立って値上がりしているようです。今後どのようになっていくのか不安ですね。

さて、二戸支部も会員が減り現在高齢会員一人と、正会員二人の3人となっております。そんなことで、行事など全くできませんし、まして、コロナのために県などの事業にさえ参加できずにいます。ただ、私は0人になるまで会は残したいと思っています。

どうぞ今後ともよろしく願います。

編集後記

広報部長 松下優子

本年度も皆さんの御協力により、東洋療法いわて第55号を発行することができました。

コロナ禍も3年目となり、いろいろ不自由な生活でしたが、コロナの副産物であるZOOMを利用することにより、多くの方が遠方、近場関係なく会議や、研修会に参加できるようになりました。これはとても素晴らしいことだと思います。

最後に、ご協力くださった皆さんありがとうございました。

奥 付

一般社団法人 岩手県鍼灸マッサーヂ師会
令和5年度 会報 「東洋療法いわて」 第55号
令和5年5月1日発行

発行人 会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057

編集責任 広報部長 松下 優子
〒020-0667 滝沢市鶉飼向新田7番地-227
電話 019-687-2405

事務所（事務局）会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057
E-mail : ms2001@aioros.ocn.ne.jp
<http://iwateken-harikyumasikai.jimdofree.com/>

印 刷 副会長 佐藤 明
〒020-0117 盛岡市緑が丘3丁目14番地33号
電話 019-681-8620

KANAKEN

痛み・美肌・疲労回復に

Biomini II

— バイオミニ II —

バイオミニ II

KE-562 価格 138,000円+消費税

(クロスII/特製) 保証番号: 226AFBZ00071000

- 定格電圧: DC5V、単三形乾電池4本、専用ACアダプタ UC83120020 (入力 AC100V)
- 定格消費電力: 0.3W
- 寸法: (高さ) 27.1mm × (幅) 223.5mm × (奥行) 124.8mm
- 重量: 290g
- 最大出力電流: 2mAms (1000回負荷時)
- 定格出力電圧: 12.6Vpp (1000回負荷時)
- 出力周波数: 0.27~333Hz
- パルス幅: 1ms~1250ms
- 出力波形: パルス波
- 出力チャンネル数: 2チャンネル
- 使用時間: 15、20、30分
- 使用環境条件: 温度 10~40℃、湿度 30~75%、気圧 700~1080hPa
- 安全装置: ゼロスタート方式、電源スイッチ、出力レベルDC/WNスイッチ
- 適合規格: JIS T2023 2011

- 付属品 (別売品)
- ① 充電端子 TRS-7000
 - ② オクトパスコード
 - ③ 別売品
 - ④ シニアアダプター (2個1組)
 - ⑤ 専用ACアダプター

4つのモードから選ぶ
簡単操作!!マイクロカレント
微弱電流

モード こり

モード 痛み

モード 美肌 (再生)

モード 疲労 (リンパドレナージュ)

- ▶ 痛めた部位をメンテナンス。
- ▶ こりや痛みはお肌の大敵。

- ▶ 傷ついた身体の修復。
- ▶ しみ・しわ・たるみ・くすみ肌を改善。

- ▶ 疲れ切った身体を回復。
- ▶ 疲れた体は美容の大敵。

痛

みの治療に新しい提案

即効深部刺激、サーノスだけのPDMウェーブ搭載



表層部位から深層部位まで刺激をコントロール。
新開発の「PDM波形」を搭載。

KANAKEN

低周波治療器

SARNOS

— サーノス —

低周波治療器

SARNOS (サーノス)

KE-548 価格 850,000円+消費税

(クロスII/特製) 保証番号: 222ALBZ00038000

- 定格電圧: AC100V
- 電源周波数: 50/60Hz
- 電源入力: 100VA
- 最大出力電圧: 130Vpp ± 20% (500回負荷時)
- 最大出力電流: 70 ± 10mAms (500回負荷時)
- 出力周波数: 1.26kHz ± 10% ~ 1.74kHz ± 10% 2.7kHz ± 10%
- 出力波形: A、B
- 出力チャンネル数: 6
- 安全装置: ゼロスタート方式・ストップスイッチ・電源ヒューズ5A
- 本体の寸法: 幅 330mm × 奥行 351mm × 高さ 226mm
- 本体の重量: 約 5.2kg
- 治療の形式: クロスI 標準
- 治療の程度: BF形波増幅



- 【付属品】
- 電源コード 1本
 - アースコード 1本
 - 2P-3P変換プラグ 1個
 - 導子コード 質量増倍2本
 - 丸形導性平導子 質量増倍6個
 - マジックバンド 長さ3本、短3本
 - 添付文書 1部
 - 取扱説明書 1部

ただいまデモンストレーションを実施中です。
お気軽にお問い合わせください。

総発売元 株式会社 **カナケン**
 本社: 〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-17-39
 TEL_045-901-5471代 FAX_045-902-9262
 http://e-kenkou.jp/ E-mail info@kanaken.co.jp

大阪営業所: TEL_06-6935-3016代 FAX_06-6935-3017
 新潟営業所: TEL_025-286-0521代 FAX_025-286-8870
 福島営業所: TEL_024-961-7211代 FAX_024-961-7221
 仙台出張所: TEL_022-287-6273代 FAX_022-287-6218